

Englische Suiten

Johann Sebastian Bach

J.S. バッハ 六つのイギリス組曲より

第 4 番 へ長調 BWV809

プレリュード (*Prélude*)

アルマンド (*Allemande*)

クーラント (*Courante*)

サラバンド (*Sarabande*)

メヌエット I (*Menuet I*)

メヌエット II (*Menuet II*)

ジーグ (*Gigue*)

解説付き

●イギリス組曲について

「イギリス組曲」は、「フランス組曲」「パルティータ」と共に、バッハの代表的な鍵盤楽器のための組曲です。いつ作曲されたか、正確なところは分かりませんが、「パルティータ」が最も遅くライプツィヒ時代<38～65才>(1723-1750)の作曲。「フランス組曲」と「イギリス組曲」は、ワイマール時代<23～32才>(1708-1717)の終わりからケーテン時代<32～38才>(1717-1723)にかけてまとめられたもので、作曲もその頃と考えられます。「イギリス組曲」は様式的に見て、「フランス組曲」より早い時期、1722年（一説には1715年頃）の作品だろうと言われています。

名称の由来ははっきりしていませんが、「ある高貴なイギリス人のために書かれた」ためにイギリス組曲と呼ばれるようになったなどの説があります。

6つの組曲からなっており、それぞれ6つの曲を持っています。そして、6つの組曲とも「プレリュード」で始まり、そのあと、「アルマンド」「クーラント」「サラバンド」「ジグ」が続き、「サラバンド」と「ジグ」の間に第1番と第2番は「ブーレ」、第3番と第6番では「ガヴォット」、第4番では「メヌエット」、第5番は「パスピエ」が挿入されています。

●第4番 へ長調 BWV809

イギリス組曲は、第1番はA dur、第2番はa moll、第3番はg moll、第4番はF dur、第5番はe moll、第6番はd mollで書かれています。長調で書かれているのは、第1番と第4番のみです。第4番は、演奏時間が最も短く、明瞭で親しみやすい曲となっています。

プレリュード - アルマンド - クーラント - サラバンド - 二つのメヌエット - ジグ で構成されています。

プレリュード (Prélude)

バッハが、この曲には珍しくフランス語で「vivement」（速く）と指示しています。長大で活発なプレリュードです。16分音符の音階的な主題が応答されていますが、主題部分は、以下のように全てスラー表記致しました。

Allegro
mp vivement
主題
主題

Englische Suiten

Suite IV

Johann Sebastian Bach
BWV 809

Prélude

Allegro

mp vitement

mf

mp

mp